

令和元年度 「千代田地区子育て支援の輪」事業報告

1. 目的

佐倉市千代田地区において、地域の支え合いの輪を広げるため、子育て支援を軸としたまちづくりを目指し、フォーマル・インフォーマル組織のネットワーク化により、地域特性の理解・課題の共有等を図り、千代田地区にあった支援のあり方を検討、実施することを目的として事業を実施した。

2. 重点目標

(1) 定期的な会議での情報共有を通じて地域課題の解決方法について検討

1) 成果

- ① 年4回の会議を開催し、本会について、2事業（わんパト・チャイルドシート）について、第24回ふれあい祭り等について協議を進めることができた。9月の会議では、臼井・千代田地域包括支援センター代表者の参加を得た。
- ② 会議後半30分は構成メンバーによる情報共有の時間を確保でき、千代田地区の現状把握や行政との情報交換の場となる。
- ③ 「地域として支援できることを探る」をテーマとし、地元小中学校3校の代表者（校長及び教頭）と意見交換会を実施した。

2) 課題

- ① 新たな地域課題についての情報共有を進めるため、新メンバーの参加を呼び掛けると共に支え合いのまちづくりに資するネットワークづくりを進めていく必要がある。（臼井・千代田地域包括支援センター代表者やわんわんパトロール事業ボランティア代表者など）
- ② 情報共有タイムをより活用していけるよう地域にあった支援のあり方を検討する場として、テーマを絞るなど工夫していく必要がある。
- ③ 地域課題に応じたゲストを招き、メンバーの研鑽を高める中で、新たな実践へ向けての素地を構築できる場としていく。

(2) 他団体との協働

1) 成果

- ① 地元小中学校3校とは8月に意見交換会を実施することができ、特に外国籍家庭への教育、進学に対する学校現場での工夫や課題、学習支援活動状況、学校側が地域へ求めている点を情報共有し、学習支援活動との連携方法について確認できた。
- ② わんわんパトロール缶バッジデザイン公募の際、地元小中学校3校へ協力依頼し、73作品の応募を得、デザイン決定まで至ることができた。
- ③ PTAと関わりを持つことはできなかったが、「臼井・千代田地区子ども110番の家の会 第1回運営委員会」へ出席をし、わんわんパトロール事業の活動報告を経て賛助金をいただけ、協働体制の大きな一歩となった。

2) 課題

- ① 学習支援団体メンバーの抱えている課題（外国籍家庭への支援）を、他関係機関にも繋げられる仕組みを検討する必要がある。
- ② 活動を通じて登録ボランティアが発見した、通学路の危険箇所や気づいた点を報告書として各学校に提出することを通じ、地域と学校の情報交換の場を位置付けていく。
- ③ 子育てを軸としたまちづくりを目指す為、学校、PTA、臼井・千代田地区子ども110番の家の会、各団体とより密接な協働体制を構築し、学習支援団体も本来の活動を維持できるようにしていく必要がある。

(3) 支え・支えられる活動

1) 成果

- ① わんわんパトロール缶バッジデザインを地元小中3校の児童生徒に公募し、シンボルが決まったことで、「支えられる」側の児童・生徒の本活動への参加を得られた。また地域の登録ボランティアも49名に増え、この事業を「支える」側になり、双方向的な活動へ繋がった。コンテストにおいて作品賞・佳作に選ばれた児童には本会会長より作品賞及び賞状を授与することができた。

2) 課題

- ① 今後は、チャイルドシートの貸出事業も含め、わんパト登録ボランティア及びベビーグッズ提供者に呼びかけ、新たな地域の支え合い活動に発展する取組に繋げていきたい。

(4) 地域住民との交流・情報発信

1) 成果

- ① 情報発信の1つのツールとして、子育て支援の輪リーフレット簡易版を作成した。
- ② 今年も「第24回千代田ふれあい祭り」にてブース出店をし、本会活動の情報発信、構成メンバーの所属団体の活動紹介をすることができた。また、休憩スペース利用（地域子育て支援センターノア職員の協力）の地域住民やわんわんパトロール缶バッジコンテストに応募してくれた子ども達、わんわんパトロールボランティアにご登録（臼井・千代田地域包括支援センター職員の協力）いただいた方と交流することができた。活動資金集めのためのチョコバナナ・ポップコーン販売（地域ボランティアの協力）も好評であった。

2) 課題

- ① チャイルドシート新生児型も購入でき、わんわん活動も含め、地区担当保健師を始め地域でのPR、さくらコンシェルHPも活用したPR活動を継続する。（千代田地区社会福祉協議会HPから本会へのリンク有り）
- ② 今年度、地域住民との交流・情報発信の機会として、わんわんパトロール活動登録ボランティアの連絡会・情報交換会「(仮称) わんぱと FESTA」を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったため、改めて開催できるよう話し合いを重ねていく。また、昨年度同様地域住民と交流・情報発信できる場を増やしていく必要がある。

3. 事業内容

(1) 会議の開催

- 1) 年4回実施。（5/24、8/30、9/27、2/21）

(2) わんわんパトロール事業

1) 成果

- ① 学校との連絡調整、わんわんパトロール缶バッジデザイン募集依頼を地元小・中学校3校に申入れ、73作品の応募があり、デザインを決定。子ども110番の家の会より、わんわんパトロール事業への賛助金を得、協働体制を構築する一歩を踏み出した。
- ② 缶バッジデザイン決定後、50個の缶バッジを発注し作成完了。50名のボランティア登録者を得る。登録者には身に付けて活動をしていただいている。
- ③ 狂犬病予防接種会場や第24回千代田ふれあい祭りでのボランティア募集、電話受付、構成メンバーの登録及びメンバーからの紹介によりボランティア登録へ至り、現在登録者が合計50名となった。
- ④ 登録者の連絡会・地域交流の実施へ向け、内容の検討やチラシの作成、「(仮称) わんぱと FESTA」の準備を進めていたが、本会の諸事情や新型コロナウイルス感染症の関係により実施が叶わなかった。
- ⑤ わんぱと事業推進チームを構成し、ボランティア登録事務の運営を構成メンバーが担う為のツールとして「わんわんパトロール登録マニュアル」を作成した。
- ⑥ 株式会社岩渕薬品より、本事業の活動へのご理解と共に、賛助金をいただくことができた。

2) 課題

- ① 地元小・中学校3校のPTA、学校、「臼井・千代田地区子ども110番の家の会」「臼井・千代田地区地域包括支援センター」等とより密接な協働体制を構築していけるよう、本事業を通して意見交換できる場等を設定していく必要がある。
- ② 缶バッジを「南部よもぎの園」に追加発注していく必要がある。
- ③ 臼井・千代田地区地域包括支援センターとの連携を深め、元気な高齢者の本事業への参加を通じ、健康維持と地域住民との交流を深める場として位置づけをしていく。
- ④ 改めて「(仮称) わんぱと FESTA」の内容、開催時期等を検討し、準備を進めていく必要がある。
- ⑤ 登録者増員により、登録事務の効率化や推進チーム体制の調整・強化を図っていく必要がある。また、登録者の中から本事業を担ってもらえる方を見つけ、地域住民主体の事業としていく必要がある。
- ⑥ 登録ボランティアに「千代田地区子育て支援の輪」へ参加いただき、本会の活動を具体的に知ることで、活動への賛同を得る、機会を設ける必要がある。

(3) チャイルドシートの貸し出し事業

1) 成果

- ① チャイルドシート貸出事業のリーフレットを作成し、自治会の回覧や千代田地区担当保健師への配布、さくらコンシェルHPへの掲載、各委員による事業PRを実施した。
- ② 約1歳～7歳の年齢対象としたチャイルドシートの貸出を5月からスタートした。（1日100円）

【利用実績】

貸出日	令和元年 9/13～9/17	11/29～12/4	12/20～12/23 (リピーター)
合計貸出回数：	3回	（※その他 新生児型チャイルドシート利用希望の問い合わせ数件有）	

- ③ 新たにチャイルドシートの寄付を募ることはできなかったが、新生児用のチャイルドシート貸出に関する問い合わせが複数あったことから、新生児も対応できるチャイルドシート(新生児～4歳頃まで利用可)を購入することができた。

新たに購入したチャイルドシート： Combi コッコロ S UX 型式 (CG-01G)

製造年月日 (2019.2.25)

- ④ チャイルドシート貸出事業推進チームを構成し、貸出事務の運営を構成メンバーが担う為のツールとして「チャイルドシート貸出方法の手順」を作成した。

2) 課題

- ① 新生児用チャイルドシートのリーフレットを作成し、新生児訪問の際、地区担当保健師に配布、案内してもらおうと共に各委員による事業PRを継続してもらう必要がある。
- ② 各チャイルドシートの取り付け方をメンバーが習得し、貸出事務の回数を重ねながら、滞りなく担えるようにしていく必要がある。
- ③ 新たに購入したチャイルドシートを含め2台での貸出を始められるため、貸出事務の効率化や推進チーム体制の調整・強化を図っていく必要がある。新たに貸出ボランティアとして協力いただける人員の確保も必要である。

(4) 千代田ふれあい祭りでのブース出店

1) 成果

- ① ポップコーン販売 (300食)・チョコバナナ販売 (168本、今年度初)を通じ多くの来客を得、また「わんわんパトロール缶バッジデザインコンテスト」にて応募のあった全73作品の展示、グランプリ・準グランプリの発表や缶バッジ配布・登録者募集並びにチャイルドシート事業のPR、休憩スペースの提供、メンバーの所属団体の活動をスライドショーにて紹介する(今年度初)等より多くの地域住民へ本会の活動を発信することができた。
- ② さくらコンシェルによる子育ての総合相談は 保育園就園相談が1件であった。
- ③ 上記①のとおり休憩スペースにキッズコーナー及びおむつ替えスペースを設け、利用者は合計48名とお年寄りから乳幼児まで幅広い方に利用してもらい、好評を得た。

2) 課題

- ① 情報提供コーナーが販売スペースの後ろに入り込んでしまい、休憩をしながら、本会の情報や各参加団体の情報を手に取ってもらうスペースとして有効化することができなかった。今回新たな試みとして、実施した各団体の活動紹介をデジタルフォトフレームのスライドショーにて行ったが、画面の暗さや小ささにより、「近くに寄らないと見えづらい」という結果となる。次年度も情報提供コーナーは工夫が必要である。
- ② 休憩スペースを子どもが利用している際に親が相談しやすい工夫や、臼井・千代田地区地域包括支援センターの相談員にも協力いただき高齢者の相談対応も検討していく。

4. 年間スケジュール

(1) 会議

- ・年4回実施。(5/24、8/30、9/27、2/21)

(2) わんわんパトロール事業

- ・4月 個人寄付をいただく
- ・4/20 (土) 染井野調整池狂犬病予防注射会場でのボランティア登録募集 14名
- ・6/26 (水) 「臼井・千代田地区子ども110番の家の会 第1回運営委員会」へ出席
 - 【出席者】 大蔵会長・事務局 (荒井)
 - 【内容】 わんわんパトロール事業の活動報告
 - 【予備費として1万円を本事業活動費にいただく承認を得る】
- ・9月 登録者の連絡会、地域交流 【未実施】
- ・11月 第24回千代田ふれあい祭りにてボランティア登録募集 9名
- ・3月 株式会社岩渕薬品より賛助金をいただく

- (3) チャイルドシート貸出事業
 - ・5月より貸出をスタート。
- (4) 千代田ふれあい祭り
 - ・11/10（日） 千代田ふれあい祭りにてブース出店

5. 全体総括

2019年度は、全4回の会議において情報共有の時間をもつことができ、外国籍家庭への学習支援の「ほっとスペース・わかば」の活動の課題についての話題が多かった為、地元小・中学校3校の校長・教頭先生と情報共有をし、学校と地域の活動の連携について具体的に話合えたことは、地域課題の解決への一歩となった。今後もテーマに沿ったゲストを迎え、子育て支援を軸にした支え合いのまちづくりのネットワークづくりを進めていきたい。

また、「わんわんパトロール事業」は、昨年3月の千代田地区社協の「木曜カフェ」にて開催した活動説明会では3名の参加者からの活動開始となったが、50名の登録者を得るまでに活動が拡大した。「臼井・千代田地区子ども110番の家の会」より賛助金を得、「臼井・千代田地域包括支援センター」より元気な高齢者にも紹介したいという声をいただき、圏域が異なる隣接地区からこの事業に賛同をいただけたことは大きい成果である。今後、同じ地域課題を抱える団体として、連携して取り組む一歩を踏み出せた。

缶バッジデザインも小・中学生の地域の見守り活動を児童自らのアイディアを元にデザイン化することができた。「千代田ふれあい祭り」にて地域住民の皆さんに応募のあった全73作品のデザインを直接みていただくことができた。「南部よもぎの園」にもご協力いただき缶バッジを作成し、登録者全員に配布、活動をしていただけるまでになった。今後は、活動してみたの振り返りや登録者同士の交流を進めていき、千代田地区の地域活動の機運を高め、他の支え合い活動へもご参加いただけるような工夫を検討していきたい。

チャイルドシート貸出事業も5月にスタートでき、問い合わせのあった新生児用のチャイルドシートを1台購入することができた。まだ、利用者は少ないが、PRを進め、支え合い活動として“あったら嬉しい社会資源”として機能していきたい。今後は、保健師より新生児訪問の際にご案内をしていただくとともに、チャイルドシート以外の子育てグッズのニーズについても調べ、貸し出し事業に繋げていくことも必要と考える。

本会の活動資金について、助成金の応募を重ねてきたが、得ることができず、缶バッジも「千代田ふれあい祭り」のポップコーンの売上金を元に発注をした。活動に賛同してくださった（株）岩渕薬品、「臼井・千代田地区子ども110番の家の会」、個人寄附もいただくことができた。賛同いただけた方にも更なる応援をいただけるよう、地域の皆様と共に、千代田地区の“こうあったらいい”を実現できるよう活動を継続していきたい。

「千代田ふれあい祭り」には、全4回参加し、直接地域の皆様に活動の情報発信を継続的にすることができた。地域の皆様にもご参加いただけるような取り組みを今後も企画し、地域の皆様の声を活動に活かしていきたい。

今年度は、地域の皆様にご参加いただきながら地域課題を解決する取り組みを隣接圏域の方々との交流も含め推進でき、来年度以降、継続的に活動を続けると共に、活動の情報発信も併せて行いながら、圏域外も含め賛同者のネットワークづくりを進めていきたい。